

特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議 天守閣部会(第13回)

日時：平成30年11月2日(金) 10:00～12:00

場所：名古屋能楽堂 会議室

会議次第

1 開会

2 あいさつ

3 報告

- ・第12回天守閣部会以降の経緯と今後の進め方 [資料-1]

4 議事

- ・第12回天守閣部会における主な指摘事項と対応状況について [資料-2]
- ・復元天守の寸法の分析について [資料-3]

5 その他

6 閉会

特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議 天守閣部会（第13回） 名簿

日時：平成30年11月2日（金）10:00～12:00

場所：名古屋能楽堂 会議室

（敬称略）

■構成員

氏名	専門分野	所属等	出欠
小野 徹郎	建築学	名古屋工業大学名誉教授	出席
川地 正数	建築生産	川地建築設計室主宰	出席
瀬口 哲夫	近代建築史、まちづくり	名古屋市立大学名誉教授	出席
西形 達明	地盤工学	関西大学名誉教授	出席
麓 和善	建築史、文化財保存修理	名古屋工業大学大学院教授	欠席
古阪 秀三	建築生産	立命館大学客員教授	出席
三浦 正幸	日本建築史、文化財学	広島大学名誉教授	出席

・オブザーバー

氏名	所属等	出欠
洲崎 和宏	愛知県教育委員会生涯学習課文化財保護室室長補佐	出席

■特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議（第12天守閣部会）における主な指摘事項と対応

資料-2

発言者	該当章	該当頁	主な指摘事項	対応
瀬口三浦	資料-3 1 復元構築・復元整備基本構想	G17～20	<ul style="list-style-type: none"> ・現天守閣の価値、復元天守の意義について本日の部会の意見を元に資料を修正してほしい。 ・木造天守のイミテーションとして現天守閣を表現した、というところを確認すること。 ・現天守閣の耐震補強と耐用年限、および木造復元による耐震性の確保というストーリーが文化庁に対してアピールできるような構成にしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指摘のあった点については精査の上、修正を加えました。 ・今後の資料作成に際して調査を進め、文化庁と相談していきます。
西形	資料-3 3-1 構造計画の考え方	G53～65	<ul style="list-style-type: none"> ・天守復元工事中の石垣の安定化対策の検討が必要。 ・はねだし構造が石垣内に設置された際に、石垣への影響があるのかどうか検討が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・G60ページにもありますように今後石垣保全計画を作成するとともに様々な手法により検証して、部会で報告する予定です。
川地	資料-3 3-2 防災・避難計画の考え方	G78	<ul style="list-style-type: none"> ・実際の入場者数が想定を上回って避難計算が成り立たなくなることがないように入場者数の平準化等での対応も必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後の利活用計画・運営計画の策定の中で検討していきます。
川地	資料-3 3-2 防災・避難計画の考え方	G83	<ul style="list-style-type: none"> ・階段の床開口に設置される水平引戸の閉鎖機構について十分検証してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後試験体を制作して検証して機能の確認等を行う予定です。

第12回天守閣部会以降の経緯と今後の進め方

1) 経緯

時 期	内 容
平成30年 7月13日	<ul style="list-style-type: none"> 第28回石垣部会において、天守台石垣の調査結果及び保存と安全対策を諮り、石垣の保存方針が不十分であることが指摘される
7月19日	<ul style="list-style-type: none"> 石垣部会での指摘を受け、修正した天守台石垣の保存と安全対策を石垣部会構成員に送付 第12回天守閣部会において、天守閣復元に係る基本計画書(案)を諮り、天守閣部会に関する内容については了承されるが、石垣に関しては石垣部会の了承を得るよう指摘される
7月20日	<ul style="list-style-type: none"> 石垣部会及び天守閣部会からの意見をできる限り反映した基本計画書(案)を、文化庁に持参したが、その内容のうち石垣の保存方針について、文化庁としては、地元有識者とまだ認識の一致を見ていないことを指摘されたため、提出を見送った
7月	<ul style="list-style-type: none"> 3月の復元検討委員会の報告に際して示された意見に対して、本市の考えが復元検討委員会に報告される
8月	<ul style="list-style-type: none"> 専門家の助言を受けながら、天守台石垣の保存方針について、石垣部会と認識を一致させられるよう、見直しを行う
9月10日	<ul style="list-style-type: none"> 石垣の評価や保存対策について再検討を行い、石垣部会と打ち合わせを行ったが、認識の一致までは至らなかった 文化財石垣保存技術協議会に相談し、調査方法等を再検討することを提案される
9月28日	<ul style="list-style-type: none"> 文化財石垣保存技術協議会と今後の天守台石垣の調査及び保存について相談
10月15日	<ul style="list-style-type: none"> 市長定例記者会見において、10月の文化審議会の諮問には至らなかったことを表明

2) 平成30年7月提出 復元検討委員会(3月)での報告に対する意見への回答

<p>復元検討委員会での報告に対する意見 (平成30年5月16日受領)</p>	<p>意見に対する回答要旨</p>
<p>SRC造による外観復元・博物館機能の背景について 近現代建築の外観復元においては、内部を木造に見せることができない事もある、城戸は内部に博物館を造ろうと考えたのではないか?</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・内部を博物館とするアイデアについて、城戸自身がなぜそう考えたのかを示す資料は確認できなかった。また、城戸が内部の仕様を具体的にどう考えていたのかを示す資料も確認できていない。 ・城戸は戦後すぐから内部を「総合科学館式のものとし、名古屋を中心とした歴史・産業その他あらゆるものを陳列する文化的なものとして利用できるものとした方が効果的」と述べているが、後の論考でも、天守閣が再建されるならば、戦災で焼失することを免れた旧本丸御殿障壁画の収蔵庫として、あるいは列品場として現代的な意味を持たせることができる、と述べている。その他、内部の有効利用を強調した論考も残されており、一貫して内部を有効利用すること、特に博物館として利用することを重視していたことがわかる。
<p>SRC造技術の発達について SRC造技術の発達については、その経緯・歴史をもっと示し、評価すべきではないか?</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・明治24年の濃尾震災、大正12年の関東大震災において壊滅的な被害を受けたレンガ造建造物に代わり、耐火性の高いものとして、明治時代中期に日本に導入された鉄筋コンクリート造(RC造)が注目されるようになった。その後に、1910年頃もたらされたSRC造は、RC造よりもさらに耐震性が高いという点が評価され、大正末期から昭和に入ると数十件規模で施工されるようになった。特に7階建て以上の高層建築では大半がSRC造で建設された。 ・関東大震災後の代表的なSRC造建物としては、三井本館、三越呉服店本店などが知られる。大正末～昭和初年には、大阪では綿業会館が建設されている。愛知県庁舎、名古屋市庁舎もこの時期のSRC造建物である。 ・昭和6年に大阪城復元にかかわった古川重春は、天守閣のような記念物は、耐火性・耐震性を兼ね備えたRC造、SRC造で造られるべきという考えを示しているが、こうした考えは昭和前期まで継続した。名古屋城の現天守閣がSRC造により再建された背景にも、耐震・耐火を求める同様な考えがあったものと思われる。
<p>天守台石垣にかかる課題への対策について 天守解体及び木造天守建築時における、天守台石垣に対する影響を考える必要がある。石垣の調査が継続中であるため、報告がなされていない。石垣の構造解析は難しいし、時間がかかると思う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・石垣部会と相談しながら、石垣調査・石垣の保全策の検討を行っている。

3) 7月復元検討委員会における報告に対する主な意見

- ・天守台石垣にかかる課題への対応について

天守解体及び木造天守建築時における、天守台石垣に対する影響を考える必要がある。天守台石垣の調査をしっかりと行い、保全策を検討する必要がある。どのような調査を実施していくのか、情報提供してほしい。

4) 石垣保存の課題と対応

ア 適正な石垣調査体制の確保

- ・文化財石垣保存技術協議会に相談し、適切な助言を受けながら調査研究方法等を再検討する
- ・調査研究センターを立ち上げ、調査研究体制を強化する

イ 具体的な石垣保全措置の計画

- ・石垣調査結果を踏まえ、天守解体及び木造天守建築時における天守台石垣に対する影響を検証する
- ・石垣保存方針や具体的な保存のための計画について検討する

ウ 石垣調査によって緊急性が高いと判断された場合の対応

- ・必要に応じて、石垣保存のための処置を優先して行う

エ 特別史跡の保存に影響を与えない基礎構造の検討

- ・調査研究の結果を踏まえ、必要に応じて見直しを行う

5) 今後の進め方

- ・石垣保存方針や具体的な保存のための計画の検討

文化財石垣保存技術協議会に相談し、適切な助言を受けながら調査研究方法を再検討する。

・具体的な保存のための計画の検討状況を石垣部会に諮り、石垣保存に対する認識を一致させ、文化庁に基本計画書を提出する。

・文化庁の技術的な助言をさらに受けながら、現状変更許可の見通しを立てるとともに、優先交渉権者と協議し、2022年12月木造天守閣竣工を守れるよう努力する。